

町政を問う

3月議会では4人の議員が登場し、

町の考えをただした。

AEDの未設置店舗に対し、
設置を提案してはどうか

A

積極的に購入と設置の要請をしていきたい

深貝仁則 議員



コンビニエンスストアに設置されているAED

現在、神戸町には学校をはじめとする公共施設や、町内の多くのコンビニエンスストアにもAEDが設置されている。

しかし、町民が買い物によく利用する、人が多く集まるドラッグストアと食料品のスーパーには、AEDの設置されて

いない店舗がある。町民が安心・安全に生活するために、AEDの未設置の店舗に対し、設置を提案してはどうか。

A 町長

神戸町では、公共施設など21カ所にAEDを設置している。さらには、24

時間営業の町内9カ所の全てのコンビニエンスストアで、町の費用で購入したAEDの設置にご協力をいただいている。

未設置の各店舗に対して、積極的に購入と設置の要請をしていきたいと考えている。

Q 宇野教育長が2期6年間に取組まれた教育施策について

(1) 2期6年間、どのような考え方で教育施策を進めてきたか。

(2) 具体的に、どのような教育施策に取り組んできたのか。

A 教育長

(1) 教育委員会では、次の3点を大事にしながら、さまざまな教育施

策に取り組んできた。

1点目は、子どもたちが明るく楽しく学校生活を送ることができるよう、先生方がやりがいを持ち、生き生きと子どもたちに接してもらえるよう、学校現場を全力で支えること。

2点目は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、批評的思考態度を体得できるような教育を目指すこと。

3点目は、町民の皆様が生涯学習やスポーツを通じて、生き生きと充実した毎日を送ることができるよう環境を整備すること。

(2) 学校教育では、誰ひとり取り残さない学びの場の確保、特別支援教育の充実及び生まれ

育った神戸町を大切に思う気持ちを育むふるさと学習、さらには、教育のICT化の推進を行ってきた。

社会教育関係では、令和元年度に神戸町文化遺産活用推進事業をスタートし、活性化事業と記録作成事業に取り組んできた。

スポーツ振興関係では、毎年秋に神戸町内のスポーツ関係団体とともに、ごうどスポーツDAYを開催することで、町民が気軽にスポーツに親しみながら、取り組むことができる機会の提供を行った。

Q

広神戸駅の西側敷地の有効活用を要望しては

A

管理機構に対し、適切な管理を要望していきたい

(1) 平成30年から(一社)

養老線管理機構(以下、管理機構)が第三種鉄道事業者として鉄道施設を保有・管理するようになった。

広神戸駅の西側敷地

は、近鉄時代から放置されている。管理機構に対し、この敷地の活用を要望してはどうか。

(2) 無人駅での防犯対策

の観点から、駅舎内に防犯カメラの設置を管理機構に要望してはどうか。

A 町長

(1) 管理機構が、広神戸

駅の西側敷地を管理しているが、以前から雑木や雑草が繁茂した状況になっている。こうした状況から令和元年度より、ごうど町賑わいのあるまちづくり協議会が町や養老鉄道の協力を得て、ホーム跡地に花の種を蒔く活動を行っている。

管理機構に確認した

ところ、西側敷地は安

全性の面からほかの用途に使用できないとのことであった。管理機構に対してできる限りの除草など、適切な管理を要望していきたいと考えている。

(2) 神戸町としては、広

神戸駅と北神戸駅の駅周辺に防犯カメラを各4台、合計8台設置し、防犯対策に努めている。

駅舎内の防犯カメラ

については、管理機構に要望していきたい。なお、東赤坂駅の駅周辺の防犯カメラについては、今後検討していきたい

たい。

Q 郷土の歴史について

神戸町では、合併25周年に「郷土の歴史神戸」、合併50周年に「美濃神戸百年史」を発刊してきた。来る10年後の合併80周年記念事業に(仮)「町制80年史」発刊の取り組みをしてはどうか。

A 町長

町史は、地域の歴史や文化を遺産として継承し、また、活用していく

ことで、まちづくりに寄与することができ、さらには、地域の歴史や文化について理解を深めるこ

とで、郷土愛を育むことができるものであると、考えている。

その一方で、町史の編纂には、調査や資料収集、整理、保存また情報管理や作成など、かなりの時間と費用が必要となってくる。

現時点では、合併80周年記念事業の具体的内容は決まっていない。したがって、「町制80年史」の発刊についても、今後の検討課題としたい。



広神戸駅西側敷地

小川榮一 議員

Q

(仮称) ごうど児童館の運用方法は

A

近隣市町の運用状況等を調査し、開館に向けて協議を重ねる

宮嶋健太郎 議員



改修工事中の児童館開設予定施設のふれあいセンター

- (1) (仮称)ごうど児童館(以下、児童館)の改修状況と、今後の運用方法はどうか考えているか。
- (2) 児童館の設計に関しても、先進事例や子育て団体、その他広く児童・生徒保護者の声を集め取り入れてはどうか。
- (3) 学校生活の時間帯は児童館を利用できない自治体もあるが、不登校児童・生徒の居場所としても児童館を活用できないか。

A 町長

- (1) 昨年12月より外壁や内部解体、そして屋上の防水工事等を進めている。今後は内装工事や施設周辺の整備を行い、令和7年7月の完成を目指して、改修工事を進める。
- (2) 今後の運用方法は現在、児童館を設置している近隣市町の運用状況等を調査し、開館に向けて協議を重ねている。
- (3) 子育て支援団体の方々に集まっていたいただき、施設及び設備に関するのワークショップを3回開催した。運営面についても、子育て支援団体や関係機関の方々からの意見等いただく場を設ける。
- (3) 子育て関係団体のほかに、教育委員会等、児童生徒に関わる方々にご参画いただき、協議・調整していきたい。

Q 不登校支援について

A 教育長

- (1) 神戸町の不登校の現状と対応は。
- (2) 西濃学園と具体的にどのような連携をしてきて、今後は予定しているか。
- (3) 支援団体との連携、SNSやメタバースの活用による多様な相談体制を確立してはどうか。
- (1) 令和7年2月末時点において、小学校は22名、中学校は31名の児童生徒が年間30日以上欠席している。
児童生徒が休み始めた段階で、家庭と連携をとった上で、支援方法を検討するケース会議を開くなど、不登校の未然防止に努めている。
- (2) 市内小中学校の校長とばら菜ROOM担当者、西濃学園に派遣し、連携の在り方について意見交換を行った。その上で西濃学園から講師を招き、全職員向けの研修会や保護者対象の講演会を実施した。令和7年度も継続した取り組みを計画している。
- (3) 民間団体等が運営するフリースクールへの通学を出席扱いにしているお子さんもおり、今後も児童生徒の可能性を伸ばせるよう関わりを保っていきたい。
メタバースによる相談体制については、他市町の取り組みや成果を調査し、子どもたちの居場所づくりの一つとして今後の研究課題としていきたい。
- 中学校では令和6年度開設した、校内教育

Q

人口減少歯止めのため、
商業や観光分野での抜本的対策が必要では

A

第6次総合計画に沿ったまちづくりを進めていくことで、町の活性化、魅力あるまちづくりに取り組んでいく

令和7年度から「神戸町第6次総合計画」（以下、6次総）に基づき、特に若者にとって魅力あるまちづくりが戦略だと考える。

町にとって最大の課題

- (1) 若者が楽しく集えるよう商業や観光分野での抜本的対策が必要ではないか。
- (2) 「人口減少」対策への有効な取り組みをどう進めていくのか。

A 町長

- (1) 6次総の策定にあ

たつて、より多くの町民の意見を拾うため、住民アンケートのほかに、中学生アンケートや住民ワークショップを実施した。ご意見の中には、「買い物と飲食する場所、観光資源の少なさ」が挙げられていた。

そのため、6次総では、基本目標の一つで

ある「魅力ある産業で活力を生み出すまちづくり」の項目の中に、「商業機能の維持」を掲げた。

これを受け、令和7年度予算においては、新たに飲食店をはじめとする事業を開始される方に対する創業支援事業補助金や元気な中小企業・小規模事業者サポート補助金、特産品開発支援補助金などを計上した。

神戸町としては、6次総に沿ったまちづくりを進めていくことで、町の活性化、魅力あるまちづくりに取り組んでいく。

Q

新年度予算の事業について

- (1) 複雑化・複合した生活の課題やニーズに対応するため、包括的に支援体制を構築する

「重層的支援体制整備事業」の具体的な取り組みとは何か。

(2) 相談支援を充実させる専門知識が必要と思われるが、どう対応するのか。

A 町長

- (1) 重層的支援体制整備事業は、分野を超えてさまざまな生活課題に対し、総合的に相談に

応じ、解決に取り組むこととされている。

社会福祉協議会と役場民生部が中心となり、既存の相談支援や地域づくりの取り組みを活かし、「包括的相談支援」参加支援「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施する。

- (2) 相談支援にあたる民生部に社会福祉士を増員し、保健師など専門的知識のある職員を配置し、全体の課題をまとめる

コーディネーターとして位置づけ、相談支援体制の整備を進めている。

また、コーディネーターを中心に勉強会を重ね、知識の向上に努めていく。



市町村長等・議会議員特別セミナーを受講して

小川 榮一 議員



1月20日・21日滋賀県大津市の「全国市町村国際文化研修所」において市町村長等・議会議員特別セミナーが開催され、全国187名の市町村長・議員らとともに受講した。

初日の1コマ目は、東京藝術大学学長の日比野克彦氏による「アート×福祉」というテーマの講義であった。日比野氏は、「人と人が空間と時間を

共有し、ともにアートの親しむことによって社会貢献ができる」というアートの新しい可能性について話された。いくつかの事例の中で、「清流の国ぎふ」文化祭の「チーオシ」も日比野氏のアートの新しい可能性の取り組みの一つであることを知ることができた。

2コマ目は、慶應義塾大学の堀田聰子教授の「安心して認知症になれる社会を目指して」であった。堀田氏は、認知症の定義から話を始められ、認知症の方の認識とそれを取りまく社会の認識のズレが問題ではないかと指摘された。その実例を多くあげられ、認知症の方が住みやすい社会は、一般の人にとっても住みやすい社会になるという言葉が心に残った。

二日目の1コマ目は、社会福祉法人わたむきの里福祉会理事の野々村光

子氏であった。テーマは「誰もが誰かの応援者」で、ひきこもり支援の数多くの取り組みが話された。「人の素敵を見つけ」という野々村氏のものの方や考え方、そして関わり方によって、多くの人たちが自分らしさを取り戻し、生き生きしていった実践に感銘を受けた。

2コマ目は、公益財団法人東近江三方よし基金の山口美知子氏の「地域

内での資金循環の仕組みから」というテーマで、近江商人の精神を生かした地域内の資金循環の取り組みが話された。自治体の限られた予算以上に地域ではお金が回っている。そのお金を地域外に逃がしてしまうのではなく、地域内を循環させる仕組みをいかに作っていったかを具体的に話された。地域経済を考える上で、大きな示唆を受けた。今回の講義で印象的

だったのは、3名の女性講師であった。どの方もエネルギーでパワーを感じた。地域を変えていくのは、やはり人材だと改めて思った。多くの学びと気づきのある講義であった。



大野町・神戸町議会議員合同研修会に参加

2月12日（水）、大野町・神戸町議会議員合同研修会を実施した。この研修は両町の議会議員の交流、情報交換を目的に実施している。

今年は、東海環状自動車道の大野神戸インターチェンジ北側に現在建設中のイビデン株式会社大野事業場を視察した。研修会では、担当者より施設の概要説明を受けた後、施設の見学を行った。

議会の動き（2月～4月）

2月

- 14日（金）議会運営委員会
- 21日（金）全員協議会
議会改革特別委員会

3月

- 3日（月）第2回定例会（初日）
- 5日（水）民生文教常任委員会
- 6日（木）総務建設常任委員会
- 12日（水）第2回定例会（一般質問）
- 13日（木）第2回定例会（議案審議）
全員協議会
議会改革特別委員会

4月

- 1日（火）町功労者表彰式
- 10日（木）議会運営委員会
広報編集特別委員会
- 17日（木）広報編集特別委員会
- 21日（月）第3回臨時会
全員協議会



6月定例会 のお知らせ

☆会期の日程

- 6月 2日（月）
開会、議案の説明
- 6月 11日（水）
一般質問
- 6月 12日（木）
議案の審議

☆場所

役場3階 議場

☆時間

午前9時30分から



夜叉堂

ふるさと再発見

表紙の写真は、神戸町安次の夜叉堂の河津桜です。夜叉ヶ池伝説ゆかりの夜叉堂には、早咲きの河津桜が約20本植えられています。見頃は例年3月上旬から中旬ですが、今年は気温等の影響により、3月下旬に濃いピンク色の花が鮮やかに咲き誇りました。多くの方が、春の訪れをいち早く知らせてくれる河津桜を見に訪れていました。

夜叉堂には、日照りのために干上がった田畑を潤し住民を救ったと伝えられている夜叉姫と、その父親である安八太夫が祀られています。